

# 亀塚遺跡発掘調査通信

亀塚遺跡は碧海台地の東縁から沖積低地に分布する鹿乗川流域遺跡群の一つです（裏面地図参照）。

亀塚遺跡ではこれまで1973年以降度々調査がなされ、最近では2016年度に発掘調査が実施されています。1977年度の調査では、入れ墨を施した弥生人の顔を線刻で描いた人面文壺形土器（右写真）が出土しています。この土器は2016年に国の重要文化財に指定され、亀塚遺跡は全国的に有名になりました。

今回の調査は、遺跡の東側（鹿乗川に近い沖積地側）、2016年度調査区の北で実施しています。これまでの調査で弥生時代から中世の土坑や溝、河道跡などがみつかっています。

最後になりましたが、皆さまには、日ごろよりの埋蔵文化財行政へのご理解・ご協力に感謝致しますとともに、この発掘通信が遺跡への親しみを深める一助となれば幸いです。



人面文土器 (1977年出土)



亀塚遺跡遠景（南東から鹿乗川上流・桜井神社方向をのぞむ）



桜井神社(式内社)



中狭間遺跡



人面文土器出土地点



亀塚墓地(古墳?)



獅子塚古墳

『変貌する弥生社会』  
(考古学フォーラム2013)より改変

令和元年度 亀塚遺跡発掘調査通信

編集 配布 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団  
愛知県埋蔵文化財センター  
HP <http://www.maibun.com>

調査 支援 株式会社アコード

令和2年3月2日配布

〒498-0017 愛知県豊田市前ヶ須町野方 802 の 24  
電話 (0567) 67-4163 【調査課】  
Twitter [https://twitter.com/aichi\\_maibun](https://twitter.com/aichi_maibun)  
Facebook <https://www.facebook.com/maibunaiichi>

〒550-0003 大阪市西区京町堀1丁目10番14号  
電話 (06) 6445-0557  
<https://www.a-accord.co.jp>



本年度の調査では、弥生時代から中世の遺物・遺構が確認されています。その中で特筆すべき成果は調査区の南側で見つかった河道跡です（右ページ写真）。

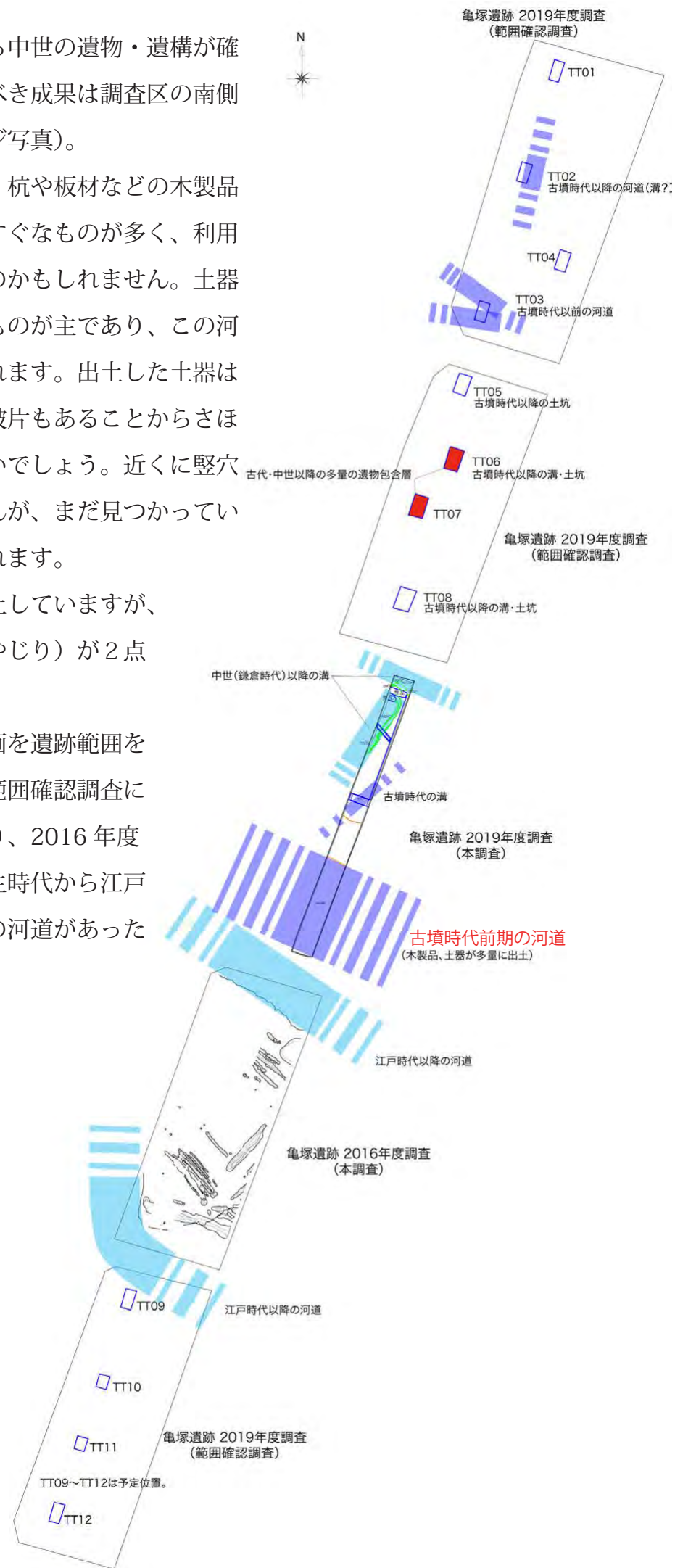
河道跡からは多くの土器に加え、杭や板材などの木製品が出土しています。自然木もまっすぐなものが多く、利用するために河道に貯蔵していたものかもしれません。土器は古墳時代前期（4世紀ごろ）のものが主であり、この河道はこの時期に埋まったと考えられます。出土した土器はあまり摩滅もしておらず、大きな破片もあることからさほど遠くから流れてきたものではないでしょう。近くに竪穴住居などがあったのかもしれませんが、まだ見つかりません。今後の調査成果が期待されます。

他の遺構からも多くの遺物が出土していますが、注目すべきものとして銅製の鍬（やじり）が2点あります（下写真）。

また、本年度は数㎡の小さな区画を遺跡範囲を確認するために調査しています。範囲確認調査においても、河道跡がみつかり、2016年度の成果も含めて、調査区一帯は弥生時代から江戸時代まで、度々流路を変える多くの河道があったことが分かります。



右の鍬は複数の小さな穴がけられたもので、多孔銅鍬というものです。弥生時代終末期から古墳時代初めにかけて東海地域を中心にみつかりますが、出土例は少なく貴重です。



## 古墳時代前期の河道跡と出土遺物



古墳時代前期の河道跡（北から）

河道跡から出土した土器群



小型壺



高坏



建築部材（先端にほぞ穴）



河道北岸から出土した土器や木製品



木製品



小型壺